

2018年度 経済学部ハイド賞

懸賞論文募集

経済学部では、1921年から1922年にかけて本塾で教鞭をとられたカナダ人教授 故ダンカン・クラーク・ハイド氏が、経済学部にて託された遺志を記念し、1988年度より学生諸君の学問研鑽を奨励するために「経済学部ハイド賞」を設け、懸賞論文を募集しています。今年度の募集要項は以下のとおりです。ふるってご応募下さい。

記

テーマ：現代における「働く」を考える

子どもが将来なりたい職業にユーチューバーが挙がるなど、働くことについての考え方、働く人々の状況、働く人々をとりまく環境は近年、目まぐるしく変化している。

集団と個人の関係や男女の役割、就職や起業に対する考え方、派遣労働、非正規労働、高齢就業の増加など働く人々の状況、テクノロジーの導入（IT化の進展・AIの活用）や制度的変更（裁量労働制の拡大、同一労働同一賃金の導入、外国人労働者の受け入れの拡大など）により働く環境も大きな転換点を迎えている。ブラック企業やパワーハラスメントなど、働く人々に係わる旧来からの問題が顕在化した背景にも以上のような変化があるだろう。

こうした現状のなかで、「働く」ということについて、具体的なトピックをとりあげながら（ひとつでも複数でも可。また、上に挙げた項目にこだわる必要はない）自由に論じなさい。なお、論文の書き方については以下のサイトが参考になります。

<http://lib-arts.hc.keio.ac.jp/ronbun/books.html>

<http://lib-arts.hc.keio.ac.jp/education/culture/academic.php>

応募論文はオリジナルであること、また他の懸賞論文や雑誌等に重複して応募・投稿していないものであることを条件とします。引用に当たっては出典を明記することにも留意しなさい。

1. 使用言語：日本語・英語のいずれか。
2. 用字・字数（枚数）：
日本語の場合：ワープロソフトでA4判用紙に横書き、10,000～16,000字 要旨(400～800字)を添付。
英語の場合：ワープロソフトでA4判用紙に横書き、3,000～5,000語 要旨(200～300語)を添付。
※日本語・英語とも上記の字数・枚数に図表及び参考文献表は含まれません。
3. 応募資格：経済学部・学部学生 単独でも複数者による共同論文でも可。
4. 提出方法：件名を「ハイド賞論文」とし hyde-group@keio.jp に添付ファイル(pdf や word)で提出。その際は、受領の返信メールをもって受理とする。ファイルを収めた USB や CD-ROM, ないしは6部を印刷して、三田・日吉 学生部 経済学部係に提出してもよい。
5. 締め切り：2018年12月7日（金）16:45 締め切りを過ぎでの提出は一切認めません。
6. 賞：・特賞（賞金10万円）・優秀賞（賞金5万円）・努力賞（賞金2万円）合わせて5編程度。各受賞論文については、経済学部ホームページおよび学内掲示板に、受賞者氏名ならびに論文題名を掲載します。
7. 発表：2019年1月下旬の予定。
8. 過去の受賞論文：前年度受賞論文を、<http://www.econ.keio.ac.jp/>に掲示しています（塾内LANでのみ閲覧可）。
9. その他：応募論文は返却しません。受賞論文は来年度、<http://www.econ.keio.ac.jp/>に掲示します（塾内LANでのみ閲覧可）。また、受賞作を受賞後に引用、転載するさいは、ハイド賞受賞作であることを明記しなければなりません。